

特集「教育とコンピュータ」の編集にあたって

角 田 博 保^{†1}

「情報」教育に関する5回目にあたる特集「教育とコンピュータ」を組ませていただいた。対象は、情報教育の情報科学・工学的・教育的見地からの抽象・設計・評価、初等中等高等教育・企業の情報人材育成教育などの情報教育における目標・方法論・理論・実践例・評価とその手法、情報教育教材、各種教育支援ツール、e-Learning, CMS, LMS, 情報教育の評価手法などに関するものとし、広い範囲で論文を募集した。

投稿された論文は、対象は学校（初等・中等・高等）教育から企業内教育まで多岐にわたり、内容は、情報科学の観点から教育を論ずるもの、教育学の観点から情報科学・情報技術の教育方法を論ずるもの、「情報」教育のカリキュラム・教材・システム環境を論ずるもの、広範囲の教育の情報化を論ずるもの、情報教育の評価手法を論ずるもの、個別事例や実践例を報告するものなど、多彩であった。

投稿論文数は33編あり、採録された論文は8編であった。採録率は約24%である。この2年減少していた投稿数、採録率は3年前のレベルまで挽回している。研究会にて論文を良くするための研究論文セッションを催した点、シンポジウムにて論文書き方チュートリアルを開いた点、また、今回から、コンピュータと教育研究会に加えて、教育学習支援情報システム研究会と連携することになった点が幾分か寄与しているものと思われる。33編の投稿のうち、条件付採録になったものが12編であった。査読者1人が不採録と判定した条件付採録論文のうち、照会后採録となった論文が3編あったことから、適切な査読コメントがきわめて有益であることが認識される。

採録された論文は、「情報教育」、「教育支援」、「学習支援」に分けて整理している。「情報教育」では、学習履歴を用いた履修者支援法を提案する1編、特定のプログラミング学習を実践評価する1編、学習用フレームワークの提案と実践を述べた1編がある。「教育支

援」では、自習環境を構築し、実践した1編、リアルタイムで授業を支援するシステムを提案した1編がある。「学習支援」では、語学学習、協調学習、遠隔学習それぞれに対応した論文（都合3編）がある。

最後に、本特集号を出版するうえであらゆる段階で労をいとわず作業を勤めていただいた坂東宏和幹事を始めとする編集委員、厳しいスケジュールの中で丁寧にも公平に査読をしていただいた匿名の査読者、スケジュール管理をはじめ適切な支援をしていただいた学会担当の方々に感謝の意を表します。

「教育とコンピュータ」特集号編集委員会

- 編集長
角田博保（電気通信大学）
- 幹事
坂東宏和（ポトス株式会社）
- 編集委員（五十音順）
井上 仁（九州大学）、上田真由美（京都大学）、大即洋子（清和大学）、
岡本昌之（東芝）、奥村晴彦（三重大学）、梶田将司（名古屋大学）、
加藤直樹（東京学芸大学）、金子敬一（東京農工大学）、兼宗 進（大阪電気通信大学）、
神沼靖子（本学会フェロー）、川合 慧（放送大学）、未代誠仁（桜美林大学）、
久野 靖（筑波大学）、高岡詠子（上智大学）、立田ルミ（獨協大学）、
長 慎也（明星大学）、中西通雄（大阪工業大学）、中野由章（千里金蘭大学）、
中森真理雄（東京農工大学）、中山泰一（電気通信大学）、西田知博（大阪学院大学）、
樫山淳雄（東京学芸大学）、松浦敏雄（大阪市立大学）、山之上卓（鹿児島大学）、
和田 勉（長野大学）、渡辺博芳（帝京大学）

^{†1} 電気通信大学

The University of Electro-Communications